



労働災害を起こさない

秋の収穫時期を迎えました。飼料用作物の収穫など1年で最も多忙となる季節ですので、今一度農作業の安全確認をしていただくようお願いします。

(農林水産省は9月1日～10月31日を「秋の農作業安全確認運動」重点期間とし、全国的に労働災害・農作業事故防止に取り組んでいます)



畜産現場での発生事象と対策

畜産現場で発生する事故の特徴は、耕種作業で発生する農機具に関する事故以外に、家畜との接触による事故も多く発生している事です。

日々の農機具等の安全確認に加え、家畜の気質に応じた対応をする必要があります。

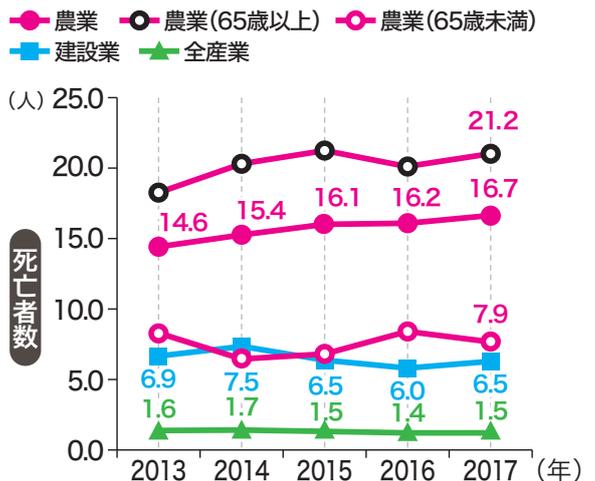


畜産現場で起こった事故の事例と対策

発生状況	対策
乗用草刈り機を用いて除草作業を1人で実施していたところ途中で脱輪し、土手から2～2.5m下に転落して草刈り機の下敷きとなり負傷した	①除草作業は作業計画を立て事前に作業場所の安全を確認する ②作業は単独で行わず、複数名で実施する
農場において豚糞攪拌機を稼働させながらレールを清掃していたところ車輪に足を挟まれるとともに脛にも裂傷を負った。1人で作業を行っていたため、なかなか脱出できず5時間ほど挟まれていた	①1人体制時の作業見直しと緊急時の対応構築(携帯電話等の通信機器を所持する) ②機械設備の点検・清掃時は必ず動作を停止させた状態で行う ③機械にパイロットランプを取付け、稼働時に点灯する
乳牛育成牛の牛房に入ったところ、頭突きをされ、そのまま身体を持ち上げられて柵に腰を打ちつけ打撲した(写真)	①作業は2人以上で行う ②牛の空腹時に牛房に入って作業しない ③突然牛房に入らない
鶏舎内で集卵装置の修理作業を終え、集卵装置から降りる際に足を踏み外して地面に落下し、背中を強打して肋骨にヒビが入った	①作業手順では高所への昇降は台車を使用する事となっているため、手順を遵守する ②目視確認等により安全確認を行う
豚の発情確認中に雄豚に左足を踏まれた。作業時は安全長靴を履いていたが鉄板からずれた部分を踏まれて、足の小指を挫傷した	発情確認作業では、豚の興奮程度を十分考慮する

牛房内で牛に頭突きをされ、身体を持ち上げられて柵に腰を打ちつけ打撲

図.10万人あたり死亡事故発生件数の推移



死亡者数 農作業死亡事故調査(農水省)、死亡災害報告(厚労省)
就業者人口 農林産センサス、農業構造動態調査(農水省)、労働力調査(総務省)
出典:「今後の農作業安全対策について」農林水産省ホームページ
https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/

〈参考〉農作業死亡事故の発生状況

農業就業人口が減少し、高齢農業者の割合が増加する中で、2018年の農作業事故死亡者数は274人と、08年からの10年間で100人減少しました。
しかしながら、農業就業人口あたりの農作業事故死亡者数は増加傾向にあり、全産業平均や、一般的に危険といわれる建設業と比較しても多くなっています(図)。



事故に気をつけましょう

- 可能であれば、危険な作業は複数名で行う
- 1人で作業する場合、所在を家族や他の従業員へ伝えておく
- 機械を日常的・定期的に点検・整備する
- 詰まりや機械に不都合が生じた時は、エンジンを止めてから作業を行う
- 家畜を取り扱う場合、安全靴・手袋といった保護具を利用する
- 日常的に家畜の状態を観察し、近づく際は声掛け・スキンシップを行う
- 事故が起こった場合の連絡手段として、いつでも携帯電話を持っておく
- 事故により療養が必要になった場合の対応を考えておく